

「2022 年度 スローモビリティシンポジウム」

グリーンスローモビリティの普及に向けて

資料集

日時：2023 年 2 月 13 日（月）13:30～16:30

会場：スクワール麴町 3 階「錦華」（オンライン併用）

主催：公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

後援：国土交通省、一般社団法人日本自動車工業会、
公益社団法人日本バス協会、
一般社団法人日本自動車連盟、
一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会



公益財団法人

交通エコロジー・モビリティ財団

Foundation for Promoting Personal Mobility and Ecological Transportation

「2022年度 スローモビリティシンポジウム」の開催にあたって

低炭素社会の実現や、高齢化が進行する地域での地域内交通の確保、安全で安心な社会の確立が求められるなか、グリーンスローモビリティをはじめとするスローモビリティは、低炭素型交通システムの確立と地域が抱える様々な課題を同時達成するモビリティとして期待されています。2022年の交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰では、宮崎市中心部でグリスロを本格導入する「宮崎市まちなかグリスロ運行協議会」が受賞するなど、これからの社会においてますます重要な役割を担うと考えられます。

エコモ財団においても、2014年の初の公道走行以降、様々な方法でグリーンスローモビリティの普及・啓発活動を続けており、今年度より離島地域におけるグリーンスローモビリティの実証・試走事業を開始しています。

離島地域におけるグリーンスローモビリティの更なる普及促進やスローモビリティの普及啓発に向け、スローモビリティシンポジウムを開催します。

【プログラム】

13:30	開会挨拶	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 会長 岩村 敬
	来賓挨拶	国土交通省 大臣官房審議官（公共交通・物流政策） 木村 典央
13:40	基調講演	「グリーンスローモビリティの普及に向けて」 一般財団法人日本自動車研究所 代表理事・研究所長 東京大学名誉教授 鎌田 実
14:20	特別講演	「新モビリティがつなぐ『次世代型のまちづくり』」 宮崎市 企画財政部 都市戦略局 都市戦略課公民連携推進室 主査 日高 和哉
14:50	休憩	
15:00	パネルディスカッション	「離島におけるグリーンスローモビリティの普及」 (パネリスト) 一般財団法人日本自動車研究所 代表理事・研究所長 東京大学名誉教授 鎌田 実 鳥羽市 企画財政課 企画経営室 木下 翔平 (令和4年度交通エコロジー・モビリティ財団実証離島) 一般社団法人姫島エコツーリズム 代表理事 寺下 満 公益財団法人日本離島センター 専務理事 小島 愛之助 国土交通省 総合政策局 モビリティサービス推進課 課長補佐 古谷 俊英 (コーディネーター) 公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部 調査役 熊井 大
16:30	閉会	

YouTube Live→



アンケート→



グリーンスローモビリティの普及に向けて

グリーンスローモビリティの
導入と活用のための手引き



令和3年5月

国土交通省 総合政策局 環境政策課

一般財団法人日本自動車研究所
代表理事・研究所長
東京大学名誉教授
鎌田 実



グリーンスローモビリティ(通称グリスロ)とは

『グリーンスローモビリティ』は、
「①時速 20km 未満」
で公道を走ることができる
「②電動車を活用」した
「③小さな移動サービス」。



↓永平寺



↑三豊 琴平

電動のため排出ガスがゼロ
エンジンが無いので静粛性に優れる
ガソリンスタンドへ行く必要がない
低速のため事故のリスクが低い

その一方、航続距離が長くない
低速のため交通流を乱す可能性
がある



グリスロを考えるにあたって：日本の現状

- 少子高齢化が進み、現在高齢化率29.1%（2030年に32%、2050年に約4割）
- これは少子化と長寿命化によるもので、高齢者の高齢化が顕著
- 人口減少も進んでいく。2050年に1億人を割る
- 人口減は地方地域で顕著。無居住地域も増えていく。
- 公共交通の衰退、高齢ドライバの事故の問題など、社会問題化。
- 移動手段に困る人が急増。
- 自動運転への期待も強いが、そんなにすぐに普及するとは考えにくい
- 高度成長期には速く大量にというのが交通の使命だった。高齢社会に適した安心安全が重要



グリスロの利点

- 20km/h未満ということで、道路運送車両法の保安基準で、色々緩和される規定がある。
- 高いレベルの衝突安全基準が免除され、シートベルトも不要。（しかし、他からぶつけられるリスクはあるため、走行環境の設定には注意が必要）
- 電動車両であることの利点（と欠点）
- ゴルフカートは、ゴルフ場での誘導線式自動運転の長い実績があるため、自動運転化が比較的容易。
- ゴルフカートは側方むきだしのため、風を感じて心地よい。（一方で夏暑くて冬寒い）
- 速度と形状により、歩行者との親和性



グリスロ導入への留意事項

- 車両単体の安全性のレベルが一般車より低いので、走行環境をよく吟味する必要がある。(交通量の多い所は、どうしても事故リスクが高まるので、避けたい)
- 他の交通との関係を気にする必要がある。制限速度より低速で走行すると他の車両等の交通流の妨げとなる。後方に他車が連なってしまったり、無理な追い越しが起きたりする。(他車の運転者にストレスを与えてしまうかもしれない)
- 幅が狭いゴルフカートであれば、必要に応じて、脇によって追い越しさせればよいが、eCOMは幅が広いので走るところを相当吟味必要。
- 電気自動車として航続距離がそんなに長くないので、走行時間とかバッテリーのマネジメントが必要



グリスロの歴史

- 国交省がグリーンスローモビリティという名称で普及促進を始めたのは2018年6月
- さらに前をたどると、2010年頃から、ゴルフカートを公道で走らせようという動き
- 東大の産学ジェロントロジーの取組と輪島商工会議所の取組
東大: 2009~11年に議論、書籍発行などを経て2013年に柏で実証。
2014年からナンバー取って被災地大槌・大船渡で実証
輪島: 2011年から諸々の実証を経て、2014年にナンバー取得。
2016年に自動運転もスタート。(現在、コロナで休止中)
- 2016年から交通エコモ財団での議論
- 2018年度から国交省実証、2019年度から環境省実証、他にも各種取組。
- 現在までに100を超える実証。でも社会実装できたのは十数か所

(このほかに、eCOM8の取組が、桐生や宇奈月等からスタートしているが、今回の話では割愛)



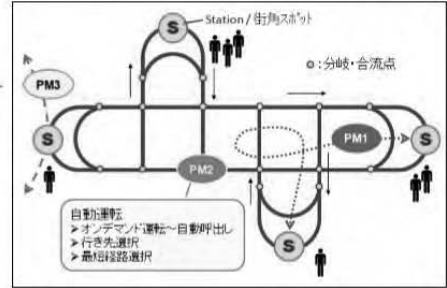
グリスロ登場まで
東大の取組
輪島での諸々

東京大学 産学連携 Gerontology 活動 ~ WG3



～ 高齢社会における交通弱者の移動を考える ～

2011 構想



2012 計画



合宿 in つま恋

2013 実行



公道走行ゴルフカー



「柏の葉」 Showcase

ヤマハ山下氏資料より

2014 展開

2013 柏の葉 Showcase ~ オンデマンド型 自動走行カート



電動カートが電磁誘導線を敷設したルート上を自動走行する仕組みを設け、利用者には複数設置したステーションで車両呼び出し、行き先設定の操作と乗車を体験してもらい、「水平エレベータ」のコンセプトを発信。「乗車感、受容性、実現性」についてヒアリング調査。

■ 日時：2013年10月11日（金）～17日（木）、7日間
10:00～12:00, 13:00～16:30

■ 場所：千葉県柏市若柴
パークシティ柏の葉キャンパス二番街
「グリーンアクシス」

約550名が体験乗車
子育て世代の主婦層から大きな支持

二番街中央部の歩行エリア（グリーンアクシス）に全長500m程度の周回コースと乗降用の3駅を設置



時間帯によっては走行ゾーンが子供、自転車、ベビーカーで溢れる

Movie

- コース全長：475m
時計回り
周遊/一部分岐コース
- ステーション：3駅（北、中央、南）
- 車両台数：2台

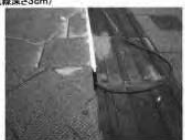


ヤマハ山下氏資料より

輪島での経験 2011-12年度



A.溝切入線部(電線深さ3cm)



溝切部全景

溝切部接近

2年間に社会実験14回。延べ2170人が利用

写真等は輪島商工会議所提供

2013年度



公道の一部を封鎖して走行実験
(乗車数287人)
しかし警察の許可が得にくい状況へ
一方、構造改革特区を申請したが却下
むしろ、正攻法で、軽自動車ナンバーを
取得する道を選ぶことへ
20km/h未満の緩和規定を用いれば、保安
基準への適合が比較的容易



2014年度



11月に正式にナンバー取得
出発式を開催
平日に1コースで運行(乗車数305人)

2015-16年度



- 7月から2コース化(病院コース追加)
 - 8月に4台体制
 - 15年度乗車数2170人
 - 16年6月から漆めぐりコース追加
 - 16年8月にキリコ会館敷地内に自動運転コース設置
 - 16年10月にマリンタウンエリアの公道に自動運転コース設置
- 12月から公道で自動運転開始



岩手での経験

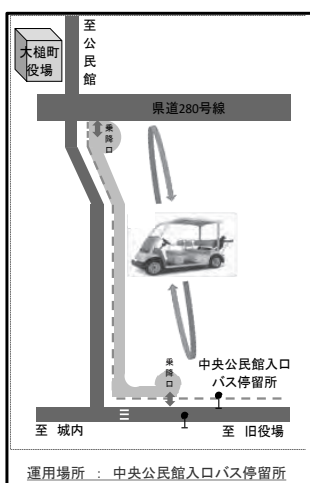
- 大槌町で、震災復興のかさ上げ工事による
県道移転で不便になった役場アクセスへの使用。
(2014年7-9月)
- 同、自動運転。(同9-12月)
- ナンバー取得で公道走行可。(同11月～)
- 大槌町の鮭祭りでの送迎(同12月)
- 大槌町の不便な仮設住宅での送迎
(同12月～2016年3月)

- 大船渡市の復興再開発地区での送迎
(2016年6月～2017年10月)



http://nikkankensetsukogyo2.blogspot.com/2016/06/blog-post_63.html

試乗コース(役場と最寄りのバス停間)



運用期間
 2014年8月20日～12月5日
 (気温:30°Cオーバーから霜が降りるまで)
 平日8:00～13:00 雨天中止
 対象となるバス本数 27本/日



御利用できるバスの時刻		
中央公民館入口	行先	
	マスト前	金沢赤浜線
8:15	道の駅やまだ	岩手県交通バス
	徳並	小籠漁板線
8:22	きりり商店街	小籠漁板線
	上大畑	岩手県交通バス
8:45	大貫台	金沢赤浜線
	赤浜バスセンター	金沢赤浜線
	上大畑	岩手県交通バス
9:15	道の駅やまだ	岩手県交通バス
	札場	小籠漁板線
9:37	きりり商店街	小籠漁板線
	上大畑	岩手県交通バス
9:45	道の駅やまだ	岩手県交通バス
	上大畑	岩手県交通バス
	マスト前	金沢赤浜線
10:38	浪板仮設商店街前	小籠漁板線
	上大畑	岩手県交通バス
11:15	道の駅やまだ	岩手県交通バス
11:25	恵水溝商店街前	金沢赤浜線
	徳並	小籠漁板線
	上大畑	岩手県交通バス
12:25	道の駅やまだ	岩手県交通バス
	上大畑	岩手県交通バス
	赤浜バスセンター	金沢赤浜線
12:45	大貫台	金沢赤浜線
12:47	きりり商店街	小籠漁板線
12:55	道の駅やまだ	岩手県交通バス

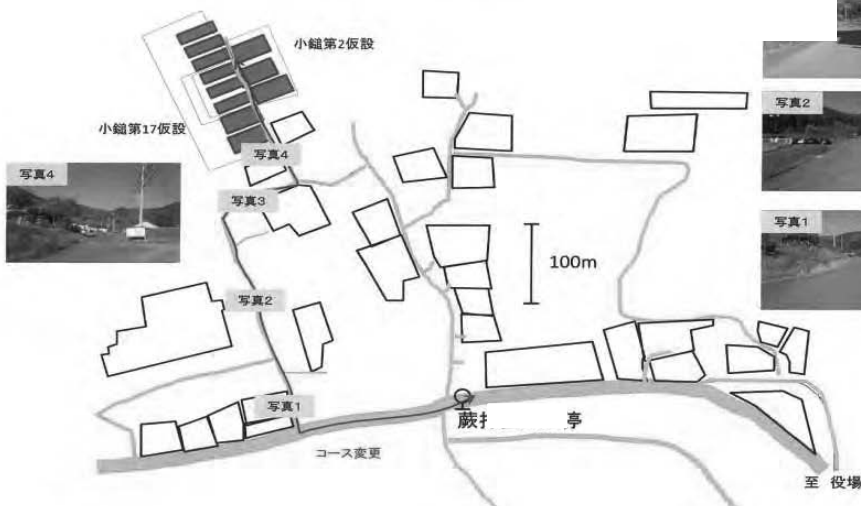
主催：東京大学大槌イノベーション協創事業
 協賛：大槌町役場 総合政策部
 大槌町シルバー人材センター

公道走行ゴルフカート

仮設住宅での取り組み

仮設住宅にお住まいの4名が公道走行ゴルフカートの運転ボランティアとして名乗りを挙げて頂きました。
急な坂道が続く仮設住宅から公共交通(バス停)までの住民の移動(往復約1km)を支援して頂いております(12/8~)(ただし冬季は天候が良い時に使用。)

小籠第2・第17仮設



↑熊本芦北 ↓輪島 →秋田上小阿仁



グリスロと自動運転の親和性2017.9~

国交省道路局や経産省の実証実験

グリスロ活用の方向性

- 市街地での周遊：池袋、宮崎、宇部等
行政が多額の補助金を出している例が多い。街の活性化の一つとしての動き
- 観光地での活用：石見銀山、琴平、由布、尾道、北谷等
観光協会や店舗の協賛等でまわしていく方向。観光MaaSの一環もあるだろう
- 住宅地でのラストマイル：松江、町田、日高、綾瀬等
今後の日本を考えると、この活用が一番多くなっていくだろう。数が多いので、多大な補助は期待できず、なるべく低コストを目指すべき



導入の方法

- 緑ナンバーで交通事業として実施
タクシー事業者等への委託となるが、費用がかかるので相当の需要がないと困難
- 白ナンバーで自家用有償運送の資格を得て実施
交通空白地あるいは福祉有償のためには、地域公共交通会議等で協議し、合意をえる必要があり、ハードルが高い
- 白ナンバーで許可登録不要の無償輸送で実施
ガソリン代(電気代)実費しか受け取れないが、容易に実施可能
車両を自治体を用意し、地域に貸与して、自治会等での運用



松戸の事例2019.10～

- 市の福祉部局がアレンジし、自治会が運営して、国交省の実証実験実施
- お揃いのジャンパーを着て運転手側も地域貢献ができてうれしい
- 乗客となった住民の行動範囲が広がった
- グリスロ賛歌という歌ができた
- 2021.10から2か所で2か月の実証をへて2022年11月から事業化



松戸の事例の 紹介記事 (シニアビジネス マーケット)

https://www.jages.net/project/municipalities/matsudo/?action=common_download_main&upload_id=8743

特集 「交通弱者」を救う！——生活圏でのモビリティの可能性

ケーススタディ

松戸市
グリーンスローモビリティ実証調査

単なる移動手段ではなく コミュニケーションツール 住民主体で地域課題に向き合う契機に

千葉県北西部の東葛エリアに位置する松戸市。JR「上野」駅から常磐線快速で約20分に位置する松戸駅を中心に広がる人口50万人の都市だ。同市では昨年、国土交通省が進める「グリーンスローモビリティ」の実証調査を実施。そこから見えてきたものは何か。

松戸市は、高度経済成長期に東京近郊のベッドタウンとして地方からの流入者を受け入れ、まちづくりがなされてきた。しかし、現在は当時若かった流入者も高齢化、高齢化率は年々上昇（19年4月時点で25.5%）。その内訳を年次推移で見ると後期高齢者人口が前期高齢者を上回り拡大する動きをみせている。団塊世代が後期高齢者となる25年を1つのピークにいったら高齢者人口は減るが、その後、団塊ジュニア世代がそれより大きなヤマをつくることが予想されている。

そうした動きを見据え同市では、介護予防・日常生活支援総合事業にも15年4月からと全国の自治体でもいち早く取り組むなど、予防への対応を積極的に進めている。

一方、16年11月には千葉大学予防医学センターとの間で、ソーシャルキャピタルを活用し、住民主体の活動を活性化させることで健康寿命延伸につなげる共同研究に関する協定を締結。具体的には縦断データを継続的に調査し都市間比較や地域間比較を行ないながら地域の特性を把握し、市の施策に結びつける活動に取り組む。

その一環のフィールド調査として同大が

市、老人クラブ、大学の3者で共同提案

市内の河原塚地区で、市内一南山カフエ・ヒアリングした際に、高低差がある（高齢化に伴い）独居者の自治会館まで自力加をきらめる人が、住民同士のつながり、動手段の確保が喫緊課題で国土交通省が実スローモビリティ



松戸の実証2021

- 小金原と河原塚の2か所でそれぞれ2れか月
- ヤマハと千葉大の共同研究で、150名のモニターの生活調査



松戸市のグリスロ事業化2022.11



タジマNAOの3列シート8人乗り
と4列シート10人乗り
幅が1.5mなので、狭い道で走
りやすい。
ゴルフカートと違って、ドア・エア
コン付き



松戸の河原塚地区は、道が狭く、坂が多い。
 (もう一つの小金原地区は、比較的
 道路環境は平易)

2地区でそれぞれ21人、80人のボ
 ランティアドライバを確保。
 許可登録不要の無償輸送で実施。



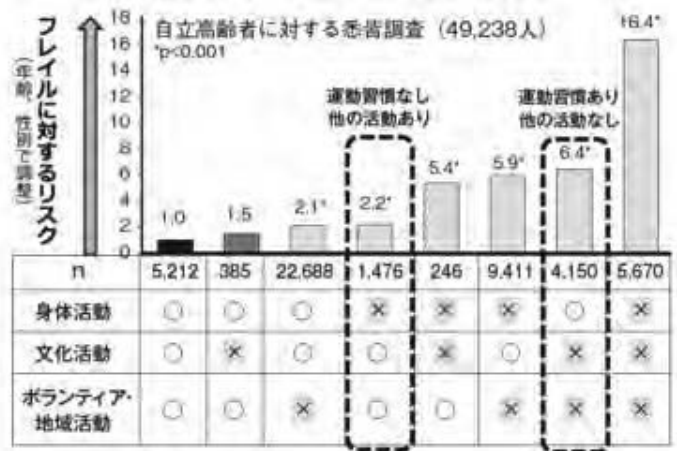
3輪3人乗りのタジマKOKIの活用も検討中



グリスロの効用

- 足の確保だけでなく
- コミュニケーションツールとしての活用
- ドライバも地域貢献できて生きがいを感じる
- 利用者も外出の機会を得る
- フレイル予防には社会性の維持が最も重要

図表5 フレイル予防には「人とのつながり」が重要
 様々な活動の複数実施とフレイルへのリスク



(出所) 吉澤裕世、田中友規、飯島勝矢、2019年「日本公衆衛生雑誌」

各地のグリスロ

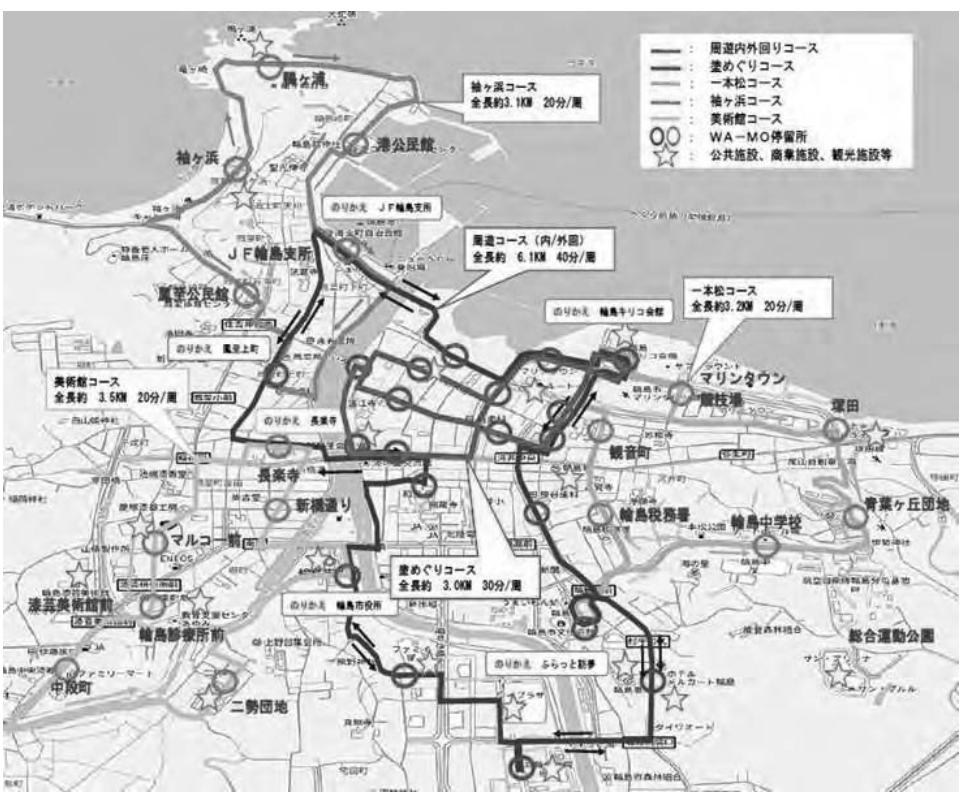






永平寺・輪島

輪島でのトライアル
(2019.11)
8台を一斉走行させ
のらんけバスのルート
をほぼカバー



事例: 2020-11

日立市→
三豊市栗島⇩
琴平町⇩⇩
千葉市桜木⇩



事例: 2020年度後半

池袋→
横浜市富岡⇩
四街道市⇩⇩
綾瀬市⇩



事例: 2021年

石見銀山→
 羽田↘
 丸の内↘↘
 日高市こま武蔵台↓



事例: 2021年

八王子市北野→
 取手市↘
 備前市↘↘
 綾瀬市↓



事例: 2021年度後半

こま武蔵台→
飯能市名栗湖▽
館山市▽▽
港区高輪▽



事例: 2021年度後半

平城宮跡→
河内長野市▽
港区竹芝▽▽
松戸市小金原▽



事例：2021年度後半

お台場→
 綾瀬市↘
 射水市↘↘
 石岡市↘



事例：2022年

伊予市→
 相模原↘
 千葉市花見川↘↘
 世田谷区↘



最近の事例

千葉市ペイタウン→
 杉並区↘
 鳥羽市答志島↘↘
 千葉市都賀↘



最近の事例

三重県明和町→
 土浦市↘
 石岡市↘↘
 水戸市↘



これもグリスロです：自動運転



境町の自動運転バス

2020年11月25日
**第1ルート
 運行開始**
 中心部の主要拠点を
 効率良く循環

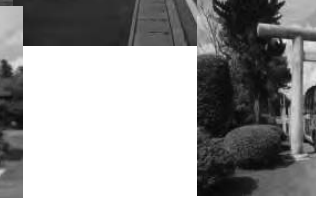


2021年2月18日
**新たにバス停を
 6箇所追加**

2021年8月2日
**第2ルート
 運行開始**
 バス停8箇所追加
土日運行開始

町長講演資料より

- 町長の強いリーダーシップで早期に実現
- 5年5億円の予算を計上（実際には補助金とふるさと納税が半々）
- レベル2の自動運転ながら、社会実装としては全国初
- 住民が前向きに受け入れた。路上駐車の減少。バス停用土地の提供など
- 20km/hという低速車が走ることで、他車もゆっくり走り、安全につながった
- 開業後1年間の経済効果は7億円以上
- （コロナで定員制限したこともあり）2年間で約1万便で約1万人利用。



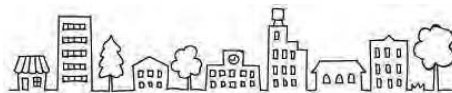
まとめ

- まちづくりの観点からの位置づけ
- ラストマイルの足としての活用
- 容易な運営方式
- 地域の移動の問題へ、住民の主体的参加も

付記

- メリットは多々あるが、本格導入に向けては課題も多い。
- 単に実証するだけでなく、事業としてどう動かすかを考えるべき。
- 小さな移動サービスであるので、多額の運賃収入は期待できない。
- 動かすことによる効果、派生的なものも含め考える。
- 速度が遅い、衝突安全性が低いことをきちんと踏まえた路線設定。
- スローで動くことの価値。
- 歩行者等との親和性。

以上のことを考えていただき、各地での普及拡大を期待。



新モビリティがつなぐ 「次世代型のまちづくり」



開業した大型複合商業施設前（アミュプラザみやざき）を快走する「ぐるっぴー」



「ぐるっぴー」から見た宮崎の夏の風景

2023. 2/13

宮崎市都市戦略課公民連携推進室

宮崎市の概要



宮崎市の基礎データ（令和2年10月 国勢調査）

- 人口 401,591人
(前回 H27比較・・・+453人)
- 世帯数 184,023世帯
- 面積 643.67km²



宮崎市のグリーンスローモビリティ



車両種	eCOM-8 ²
運行台数	2台
全長	4.93m
全幅	2.0m
全高	2.43m
最高速度	19km/h
乗客定員	9人

～「ぐるっぴー」愛称の由来～

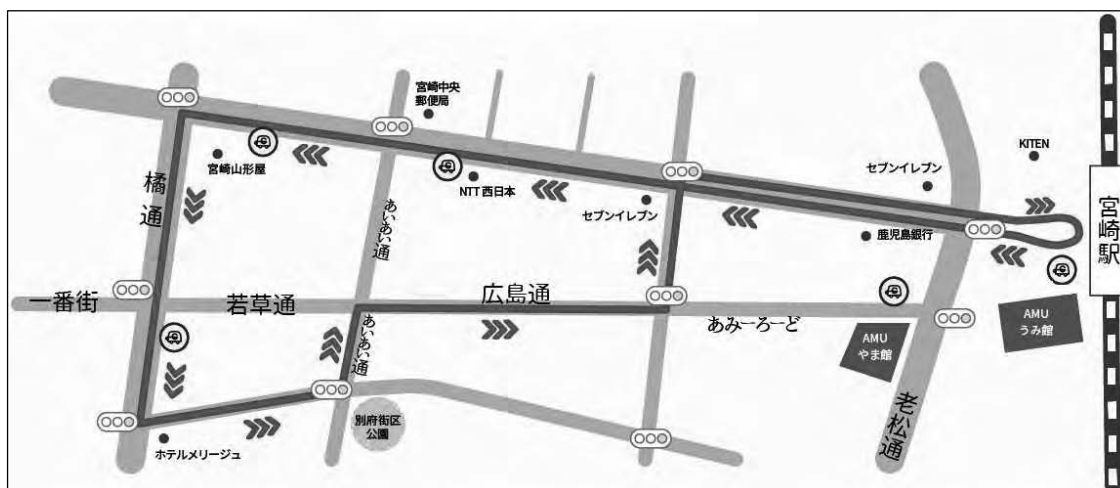
まちなかをぐるぐる回ることから「ぐる」、かわいらしく親しみやすくするために「ぴー」をつけ、子どもからお年寄りまで呼びやすい愛称として命名されました。市内の小学生、1,588件の応募の中から選ばれました。



2

「ぐるっぴー」運行概要

- 運行エリア 中心市街地（JR宮崎駅～橋通3丁目周辺（約2.1km））
- 運賃 100円/便（小学生以下は無料、障がい者は50円/便）
〈一般乗合旅客自動車運送事業として運行（全国3例目、西日本初）〉
- 原則として毎日運行
（運行時間 10：30～17：30（12分間隔で運行） 34便/日）
- 運行休止事由
悪天候時、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言等の発出時、イベントによる車両通行止め、年始（1/1）



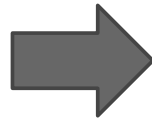
3

「ぐるっぴー」導入の経緯・目的

- (令和2年(2020年) 10月) 宮崎県による宮崎駅西口駅前広場の再整備
- (令和2年(2020年) 11月) JR九州、宮崎交通による“アミュプラザ宮崎”開業



リニューアル



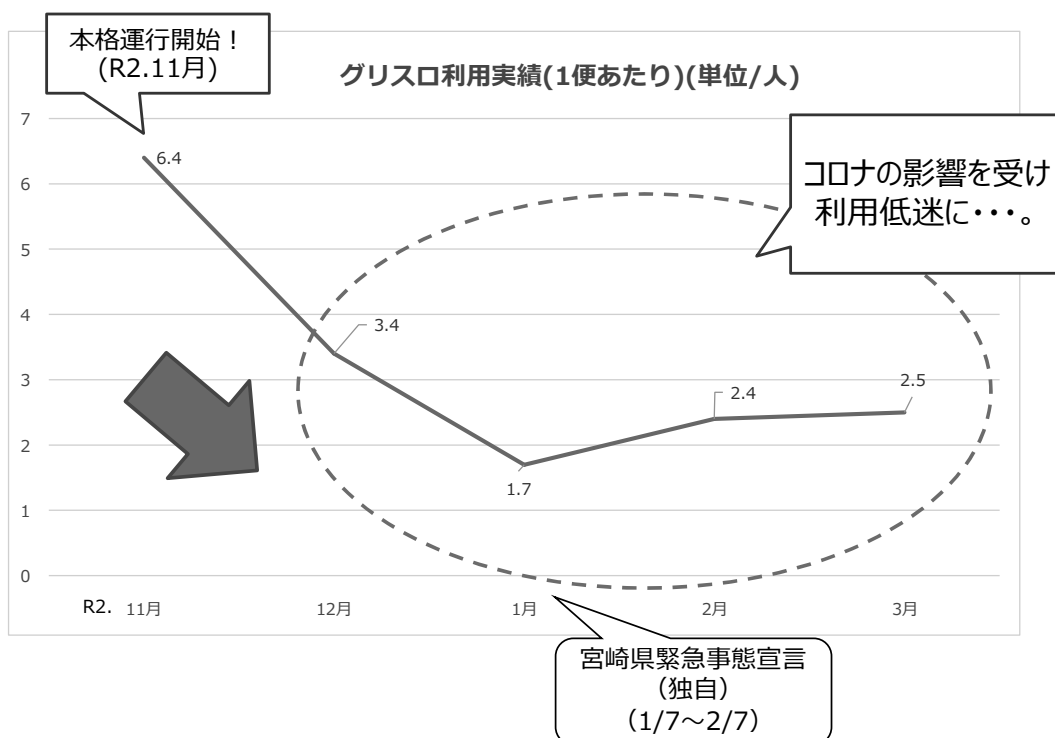
「にぎわいをつなげる」
「ひとの流れ」を誘導する

>>> 「手段」として、
グリーンスローモビリティの導入

4

「ぐるっぴー」運行開始後の状況

- 運行開始後からコロナの影響を受ける。



5

「ぐるっぴー」運行開始後の状況

● R3年度事業実施体制

宮崎市まちなかグリスロ運行協議会【運行主体】

- ①宮崎市商店街振興組合連合会（会長）
- ②宮崎商工会議所
- ③公益社団法人 宮崎市観光協会
- ④中央東地域自治区地域協議会
- ⑤株式会社 J R 宮崎シティ
- ⑥九州旅客鉄道株式会社宮崎総合鉄道事業部
- ⑦宮崎交通株式会社
- ⑧一般社団法人宮崎県タクシー協会宮崎支部
- ⑨宮崎市商業政策課（事務局）

運行委託

運行事業者
宮崎交通株式会社
・運行管理
・運賃徴収

※コロナによる利用低迷を受け、
運営基盤の安定化を図るべく
事務局を市商店街振興組合
連合会から市担当課へ移行
(R3.5/31付)

宮崎市

運行委託費を補助

6

コロナを踏まえた取り組み

- ① 事務局の移行（商店街組合⇒市商業政策課）
- ② 新型コロナ緊急事態宣言発出等は運休措置（余計な支出を抑える）
- ③ まちなかの情報発信ツールとしての活用
 - ▶ 県内一の中心市街地を12分間隔でぐるぐると周遊する特性を積極的に活用
 - ▶ 民間企業との連携（運営サポーター募集）

7

コロナを踏まえた取り組み

③ まちなかの情報発信ツールとしての活用

- ▶ 「乗って楽しい」「見て楽しい」 ⇒ ターゲットを子どもたちに

・バラ風船装飾



8

- ・大型店販促イベントとの連携 (6月)
(宮崎山形屋×アミュプラザみやざき)



9

・まちなかイベントとの連携

(JR九州鉄道の日×アミュ開業1周年×駅前商店街イベント×ぐるっぴー1周年)



10

・まちなかイベントとの連携

(運行ルート沿いの5大型店舗と連携した合同の販促イベントを実施)



※まちなかの5大型店舗による連携は初の取り組み

11



▶ 民間企業との連携

(運営サポーターを車内でP R (R4年度29社32口))
※車内、市HPで案内

「ぐるっぴー」広告PRのご案内
-グリーンズローモビリティの運行にサポートをお願いします-

2021.7.1
宮崎市まちなかグリスロ運行協議会



「ぐるっぴー」ラッピング料金

(※1車両、1ヶ月あたり(税込))

車種	サイズ(幅×高)	基本料金	取付取はずし料金	撤去料金	デザイン料
正業	110cm×128cm	20,000円	7,260円	2,430円	3,630円~
前業	250cm×190cm	50,000円	9,680円	16,940円	24,520円~
前業	110cm×128cm 260cm×100cm	30,000円	9,680円	8,280円	9,680円~

※1ヶ月単位での広告となります。新車・中古車による車体色や形状等の違いはご留意ください。
広告内容は日替わりで変更いたします(行先変更不可)。
※撤去は両面で行ってください(両方撤去は不可)。
※本業車は走行中での撤去はできません(広告が剥がれ落ちる恐れがあります)。
※本業車は走行中での撤去はできません(広告が剥がれ落ちる恐れがあります)。
※本業車は走行中での撤去はできません(広告が剥がれ落ちる恐れがあります)。
※本業車は走行中での撤去はできません(広告が剥がれ落ちる恐れがあります)。
※本業車は走行中での撤去はできません(広告が剥がれ落ちる恐れがあります)。

ぐるっぴー運営サポーターの皆さま

私たちと一緒にぐるっぴー運行を
応援して下さりありがとうございます。

宮崎市・宮崎市まちなかグリスロ運行協議会

ぐるっぴー運営サポーターの皆さま

私たちと一緒にぐるっぴー運行を
応援して下さりありがとうございます。

宮崎市・宮崎市まちなかグリスロ運行協議会



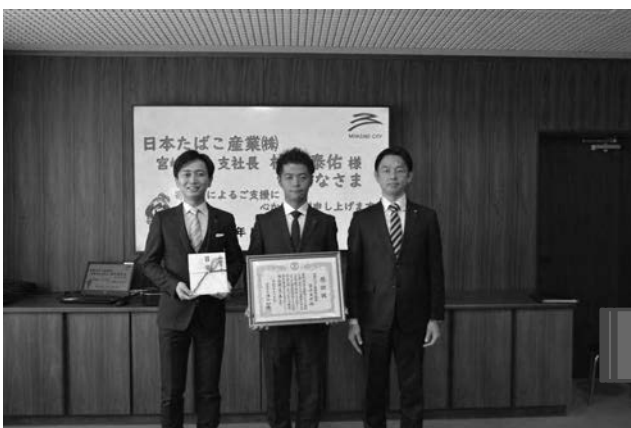
企業版ふるさと納税の寄附増に向けた取組強化について

特に寄附を募集する事業を6つのメニューに刷新します

<p>学校教育と放課後対策</p> <p>A1型教材の導入により、児童・生徒一人ひとりに個別最適化された学びを保障します。児童館・児童センターを適切に管理運営するなど、子育てを支援します。</p> <p>事業名：GIGAスクール推進事業 児童館・児童センターの運営管理</p> 	<p>子どもの未来応援</p> <p>自らの未来に希望を持った子どもの成長を支援するため、子どもの貧困対策活動に対する助成や、安心して子育てができる環境整備を促進します。</p> <p>事業名：子どもの貧困対策活動支援事業 ファミリー・サポート・センター利用料補助事業</p> 	<p>動物園の再生</p> <p>「宮崎市フェニックス自然動物園」を再生するため、施設のリニューアルを推進します。</p> <p>事業名：フェニックス自然動物園再生事業</p> 
<p>再エネの促進</p> <p>再生可能エネルギーを促進するため、住宅用太陽光発電システムや蓄電池の導入に要した費用の一部を助成します。</p> <p>事業名：太陽エネルギー利用機器導入促進事業</p> 	<p>地域活性化とゼロカーボン</p> <p>宮崎駅周辺エリアの活性化、ゼロカーボンシティの推進を促すため、電気自動車であるグリスロ（ぐるっぴー）の運行を支援します。</p> <p>事業名：まちなかの回遊性向上促進事業</p> 	<p>農業の振興</p> <p>持続可能な本市農業を目指すため、新規就農者の確保を図り、一定の要件を満たす農家の後継者に対し、給付金の支給を行います。</p> <p>事業名：農業後継者確保・育成支援事業</p> 

企業版ふるさと納税 日本たばこ産業(株)宮崎支社様

R4.12/15(木) 感謝状贈呈式



宮崎市長 JT宮崎支社 議長
 柏木支社長



停留所看板整備に活用！



(停留所看板イメージ)



今後の展開（公民連携によるまちづくり）

- アミュ開業+ぐるっぴー運行で高千穂通り活用に向けた検討へ
 - ▶ 高千穂通り周辺地区の道路空間利活用協議会（国県市等で構成/R3.11月~R5.3月）



今後の展開（公民連携によるまちづくり）

- アミュ開業+ぐるっぴー運行で高千穂通り活用の検討へ
 - ▶ 高千穂通り周辺地区の道路空間利活用協議会（国縣市等で構成/R3.11月~R5.3月）



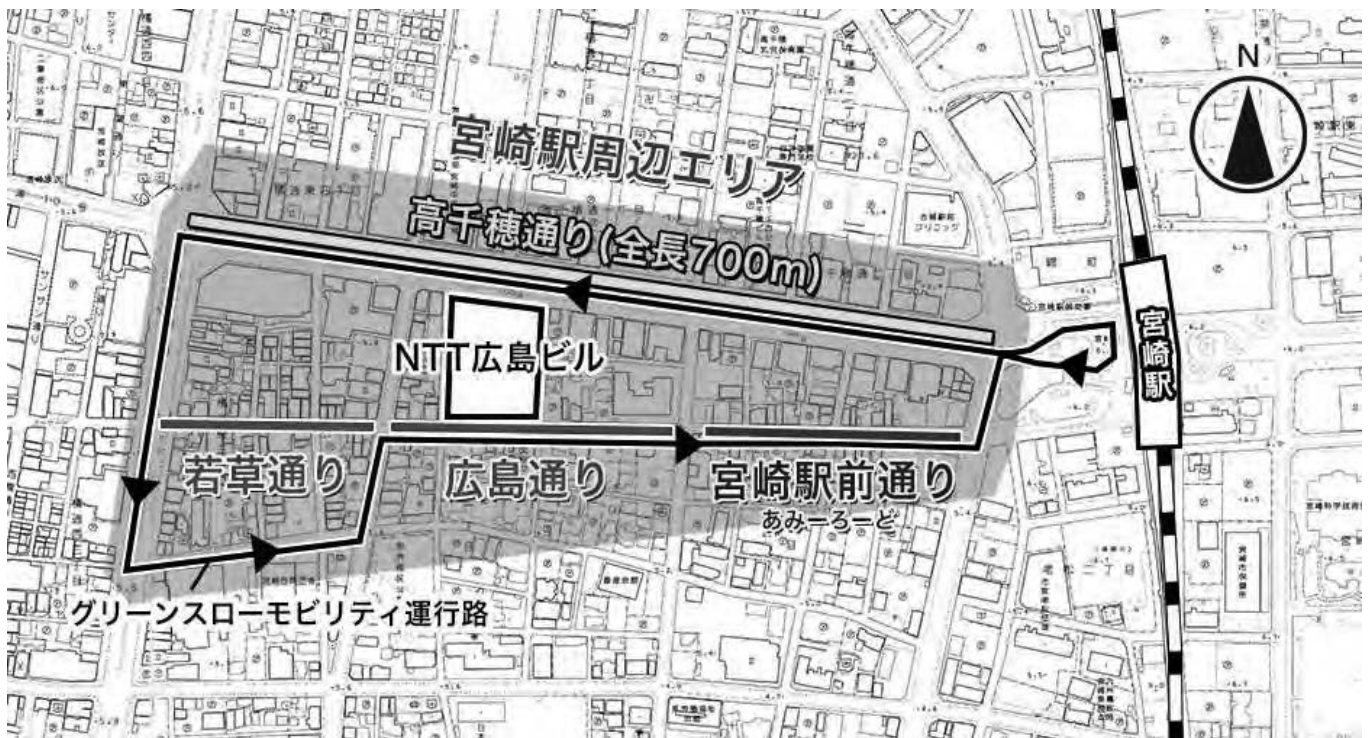
18



illustration : 合同会社カネック

19

● 新たな人の流れをつくる（まちなかウォークブルの推進）



宮崎市×NTTグループ「次世代型まちづくりの推進」に関する連携協定（R4.12/23）

宮崎市
2022年12月23日

報道関係各位
宮崎市

宮崎市とNTTグループによる「次世代型まちづくりの推進」に関する連携協定の締結について

宮崎市（市長：清山 知憲）は、西日本電信電話株式会社宮崎支店（支店長：柴畑 秀哉 以下、NTT 西日本宮崎支店）、およびNTTアーバンソリューションズ株式会社（代表取締役社長：辻上 広志 以下、NTTアーバンソリューションズ）と、次世代型まちづくりを共同で推進するための連携協定を締結しましたので、お知らせいたします。

1. 協定の目的
本協定は都市機能が集積する宮崎駅周辺エリア（高千穂通り、宮崎駅前通り、広島通り、若草通り一帯）において公民連携によるまちづくり推進のため、他エリアにも展開可能なモデル化を実現することで、持続可能なまちづくりの実現を目的としています。

図1 宮崎駅周辺エリア

2. 取り組み事項
宮崎市、NTT 西日本宮崎支店、NTTアーバンソリューションズおよび本協定に賛同してくださる関係団体の皆様と連携して、以下の事項を推進していきます。

- (1) ウォークブルシティの推進
- (2) ICTを活用したスマートシティの推進
- (3) ゼロカーボンシティの推進
- (4) その他、公民連携による取組が必要と認められる事項

取組事項

- (1) ウォークブルシティの推進
- (2) ICTを活用したスマートシティの推進
- (3) ゼロカーボンシティの推進





ご清聴ありがとうございました

22

太陽光発電でグリスロを充電！

グリスロは地域のコミュニケーションツール



一般社団法人姫島エコツーリズム

姫島の紹介



姫島の特産品

7つの海底火山で形成された島、瀬戸内の海の幸に恵まれた美味しい車エビ



天然車エビの海鮮丼と味噌汁セット

姫島車エビしゃぶしゃぶコース



一般社団法人姫島エコツーリズム

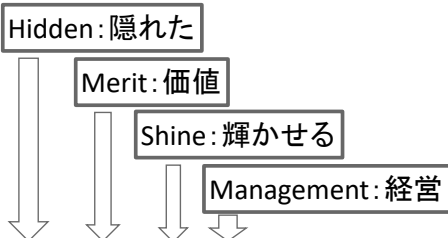
■ 目的

未来の子供たちに豊かな社会をつなぐ。

■ 目標

「ひめしまモデル」を世界各地に広める。

【隠れた価値を輝かせる経営】



Himeshima・Model

スイスのツェルマットを目指す



■ 事業内容

① 環境性

エネルギーの地産地消で地球温暖化を防止

② 社会性

高齢者のQuality of Life (QOL) 向上

③ 経済性

観光振興による産業の発展と雇用の創出

④ 持続性

ソーシャル・ビジネスで雇用の創出

■ 運営体制

一般社団法人姫島エコツーリズム

車両の運営管理、レンタカー事業

【会員】

T-PLAN株式会社	太陽光発電充電装置
株式会社おおいた姫島	特産品の販売
介護施設NPOひだまり	高齢者介護施設
ガイドグループ島の風	観光ガイド

取組み① エネルギーの地産地消で脱炭素社会の構築

■エネルギーの地産地消の実現

太陽光発電蓄電システム「青空コンセント」の導入

- 太陽光発電による電動モビリティの充電
- 温室効果ガス削減による脱炭素社会への構築
- 非常時に有効な独立型電源

「青空コンセント」



取組み② グリスロが地域の新たなお出かけを創出

■グリスロを活用した介護施設による外出支援

高齢者の新たな移動手段として活用

- 自宅までのラストワンマイル問題の解決
- 自宅での介護者や施設に入居している高齢者の外出支援
- 高齢者のQuality of Life (QOL) 向上



地域の人とのふれあう機会が増える



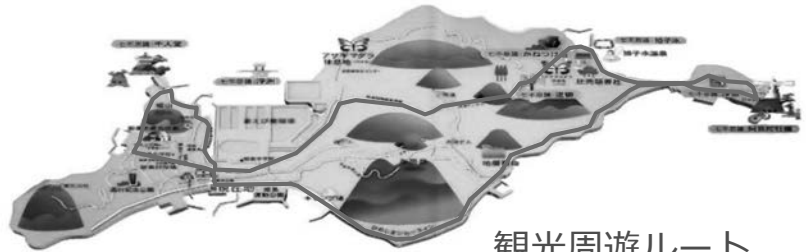
友達とゲートボール場で久々の再会



取組み③ 電動モビリティで二次交通の課題解決

■ 電動モビリティを活用したエコツーリズム実施

観光客に電動モビリティをレンタルしエコツーリズムを提供
 →公共交通空白地域における課題解決
 →エコツーリズムで観光客へ自然環境保全についての啓発
 →エコツーリズムを通して、地域の観光産業発展



観光周遊ルート (約17Km)



取組み④ 雇用の創出で持続可能な地域モデルの構築

■ 「Iターン就職」「女性活躍」に繋げる



長崎県黒島に「ひめしまモデル」を展開



カーポート一体型太陽光発電設備「青空コンセント」を
日本郵便年賀寄付金配分事業により設置

7

13



パラオ国で「ひめしまモデル」の普及調査



パラオ国小型電気自動車、太陽光蓄充電システム、
姫島モデルを活用した温暖化対策案件化調査

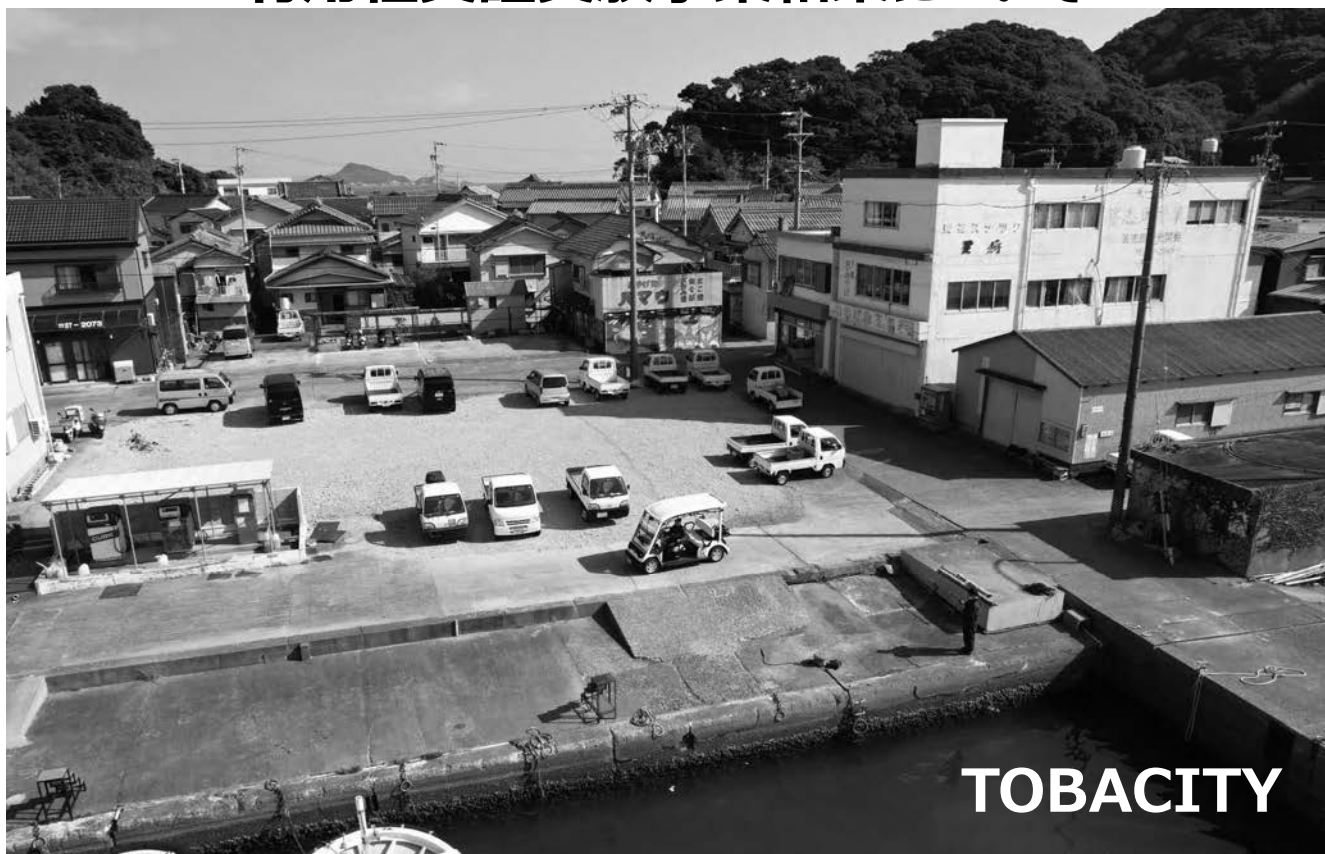
7

13

17



答志島におけるグリーンスローモビリティの 有用性実証実験事業結果について



鳥羽市 概要



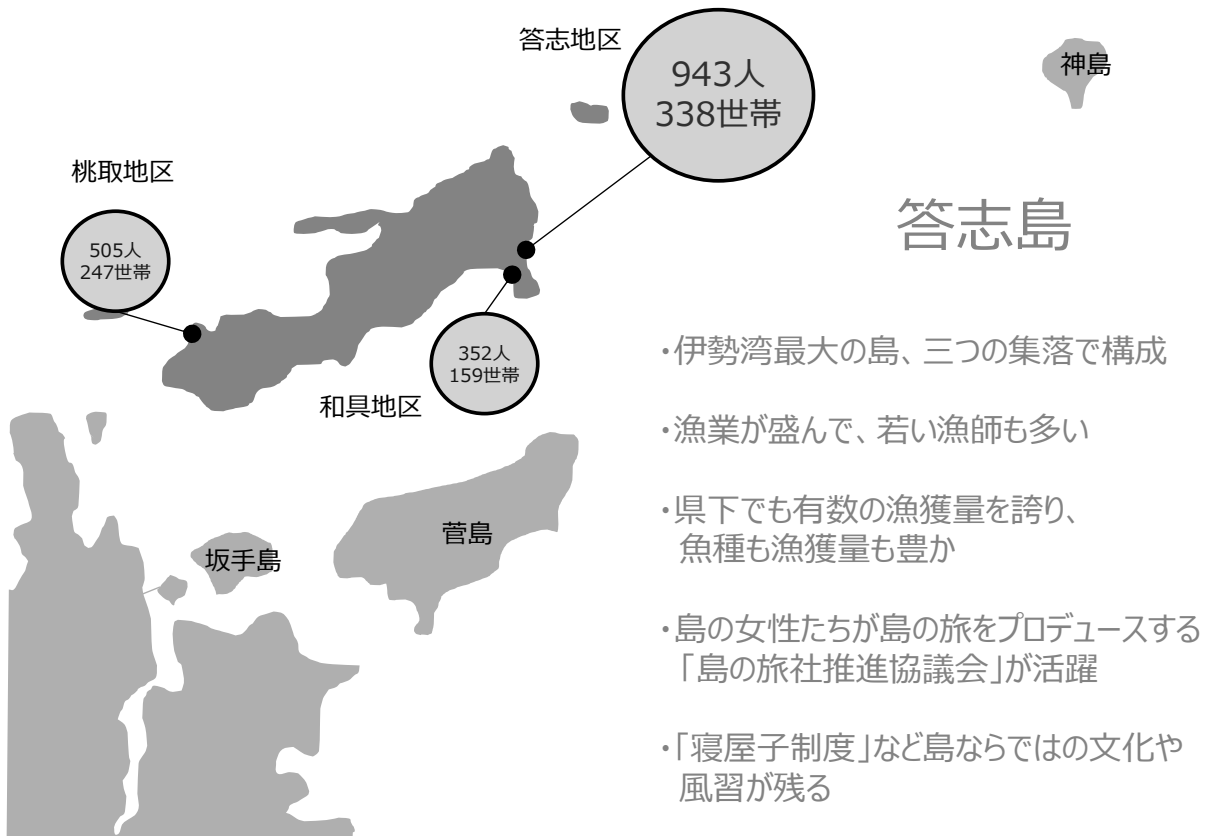
人口：17,212人、8,233世帯（R4.12月末現在）
うち 離島 2,856人 1,289世帯
（人口の約17%）

面積：107.34km²

1946年：伊勢志摩国立公園指定
1954年：市制施行
1966年：米カリフォルニア州サンタバーバラ市と
国際姉妹都市提携
1977年：国際観光文化都市指定
2010年：過疎地域指定
2011年：兵庫県三田市と友好都市宣言
2014年：鳥羽市制60周年



答志島の概要



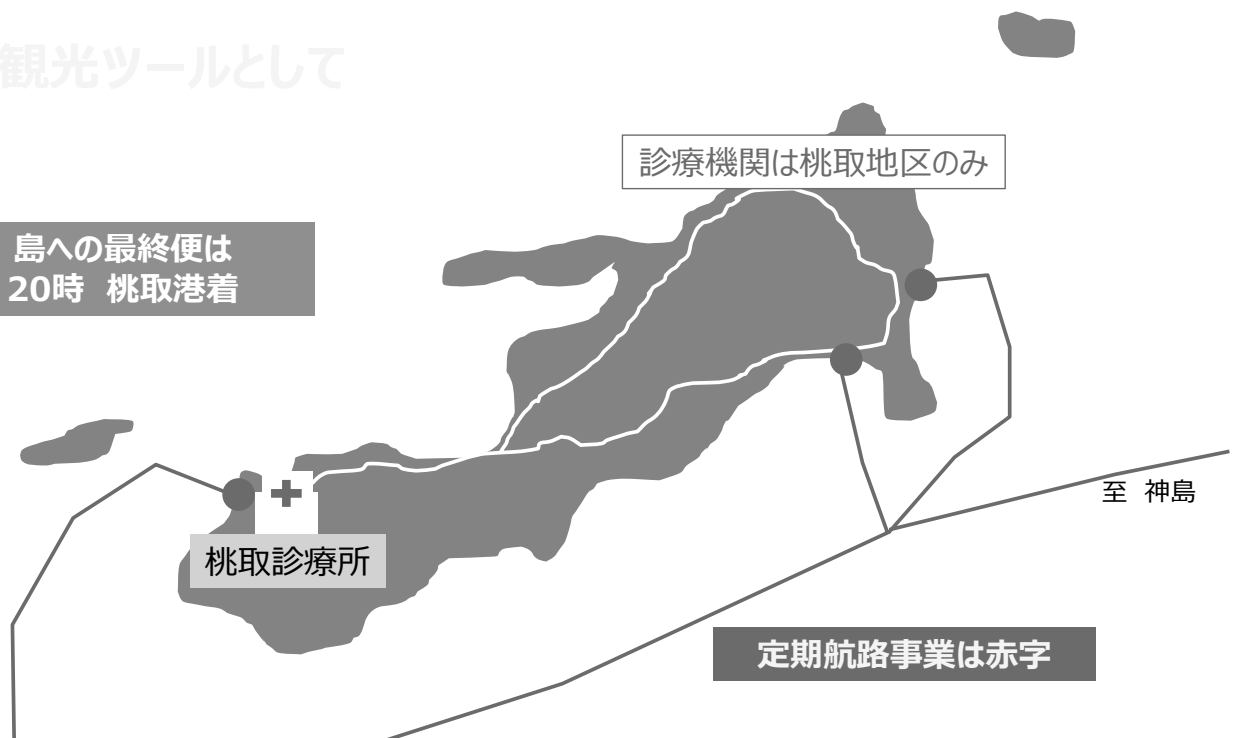
人口@R4.12月末時点

実証したかった答志島の課題

① 島内交通手段として

② 観光ツールとして

島への最終便は
20時 桃取港着



① 島内交通手段として

② 観光ツールとして

活気づく港



細く迷路のような路地



実証結果①-1

「今回の車両は」 答志島の島内交通としては使いにくい

島民意見より

- ・速度がゆっくりなので漁業繁忙期にイライラされそう
- ・夏と冬はエアコンが無いので乗る時間が長いと辛い
- ・答志⇔桃取で20分はしんどい
- ・診療所送迎は8人以上乗るので4人乗りだと対応できない
- ・答志⇔和具間くらいだと良い

答志島の島内交通に求められる要素として

- ・ある程度（10人以上）の人数が乗れる車両
- ・ある程度の速さ（法定速度程度）
- ・車両の維持管理費及び運用費が低コスト
- ・乗る際の料金が安い事
- ・安全性

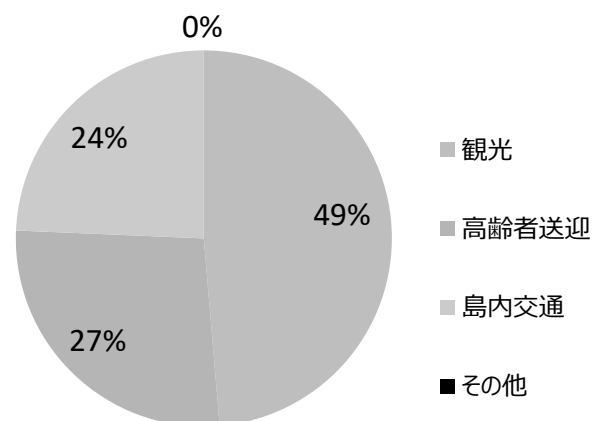
➡ 答志⇔和具間で大きな車両であれば
活用の可能性

観光案内や送迎車として高評価

アンケート
Q自由記述 ※抜粋

- ・観光案内にとっても楽しい
- ・とても楽しい送迎でした
- ・とても良かった（スピード、外観）夏にぴったり
- ・貸し出しが有ると良い
- ・音がうるさいのと恥ずかしい
- ・島内を巡るのにとっても良いと思いました。
- ・観光で使うのが良いと思いました。
- ・すごく乗り心地が良かったです。
- ・楽しかったです。
- ・冬にはひざ掛けがあると良いと思いました。
- ・島内案内で利用したい。

アンケート
Qどのような活用が良いと思いますか



実証結果②-2

路地も
かなり
通れる



実証結果②-3

島民との交流、
ガイド等との会話の
きっかけに



グリスロは

エコなコミュニティ

ツール



令和4年度 離島におけるグリスロ実証の採択地域

- 答志島（三重県鳥羽市）
- 佐木島（広島県三原市）



実証調査の様子(鳥羽市・答志島)



公益財団法人
交通エコロジー・モビリティ財団

実証調査の様子(三原市・佐木島)



公益財団法人
交通エコロジー・モビリティ財団

令和5年度 離島におけるグリスロ試走・実証地域の企画募集

1. 概要

グリーンスローモビリティ※を活用し、離島の環境保全と地域課題の解決に向けて取り組む試走・実証調査の企画提案を募集します。なお、採択された離島地域に対しては、当財団が所有する車両(カート型(乗車定員;4名))を最大4週間程度、無償で貸与します。

2. 募集内容

以下の条件を満たす、企画提案を募集

- ① 令和5年度に実施する
- ② 離島の振興に資する
- ③ 今後、実装に繋げられる見通しが高い
- ④ 地方自治体が積極的に連携

3. 応募資格

地方自治体、または運行主体となる民間事業者や団体
※複数団体によるコンソーシアムでの応募も可能。ただし、その場合は地方自治体を構成員に含むこと

4. 応募方法

応募申請書と企画提案書をエコモ財団へ提出

5. 採択件数

3件程度

※グリーンスローモビリティは、時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスであり、その車両も含めた総称(略称:グリスロ)



カート型グリスロ(左:4人乗り、右:7人乗り)

6. スケジュール


応募期間 令和5年1月16日(月)~3月15日(水)
選考期間 令和5年3月16日~4月中旬
採択通知 令和5年4月下旬
実証開始 令和5年5月以降

7. 募集ホームページ

詳しくはHPをご覧ください

<http://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/r5.bosyuu.html>



 公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団

離島活性化のための交付金

【提供元】国土交通省国土政策局離島振興課

離島活性化交付金は、離島振興法改正(令和4年12月閣議決定、令和5年4月施行予定)も踏まえ、離島の自立的発展を促進し、島民の生活安定・福祉向上を図るとともに、地域間交流を促進し無居住離島の増加及び人口の著しい減少を防止するため、支援対象事業を令和5年度より拡充、一層の離島振興を図るものとなった。デジタル技術等新技術活用促進事業(グリーンスローモビリティ関連)においては以下のとおり。

離島活性化交付金(拡充含む)

目的:戦略産業の育成による雇用拡大等の定住促進、観光の推進等による交流の拡大促進のための事業を実施し、離島の振興を図る。

○定住促進事業

※下線が令和5年度より拡充等部分

- ・産業活性化事業
 - 雇用の創出のための戦略産品開発
 - 輸送費支援
 - 企業誘致等促進
- ・定住誘引事業
 - U・J・Iターン希望者のための情報提供
- ・流通効率化事業
- ・デジタル技術等新技術活用促進事業
- ・小規模離島等生活環境改善事業
- ・安全・安心向上事業

○交流促進事業

- ・離島における地域情報の発信
- ・交流人口・関係人口拡大のための仕掛けづくり
- ・島外住民との交流の実施・繋がり構築の推進

◆主な補助率:都道府県、市町村…各事業の1/2以内
民間団体…各事業の1/3以内(※民間のみでの申請不可)

デジタル技術等新技術活用促進事業において以下、

- ① ドローン等を活用した物流確立
 - ② グリーンスローモビリティ等の導入
 - ③ 遠隔診療の導入
 - ④ 遠隔教育の導入
 - ⑤ 再生可能エネルギーの活用
 - ⑥ 介護、防災等の省力化に向けたセンサー技術の導入
 - ⑦ その他のデジタル技術等新技術活用促進事業
- が支援可能となった。

【お願い】

- ・自治体様へ…実装に向けた取り組み推進
- ・企業様へ…離島のある自治体へご相談

※本交付金申請は自治体主体の申請となります。
また、申請が必ず採択されるものではありません。

スマートアイランド推進実証調査

離島は四方を海などに囲まれ本土から隔絶されているため、人の移動や物流への制約などの条件不利性を背景にした様々な課題を有している。

このため「スマートアイランド推進実証調査事業」により、ICTなどの新技術を有する民間企業・団体と離島地域が協力してそれらの課題解決に取り組んでいる。

実証調査の例（想定）

医療	物流	交流	エネルギー
島の課題 常勤医師の不足、各部門の専門医が不在 	島の課題 物流体制が定期航路の運航に左右される 	島の課題 島の魅力や特産品をPRする場が少ない 	島の課題 島外に依存した高コストなエネルギー供給体制 
実証内容 遠隔診療により患者側の負担を軽減しつつ、AI診断システムを組み合わせる等により医師側の負担も軽減	実証内容 従来のドローンより大きな物資を運ぶことが可能な無人運船や無人小型飛行機等を実証	実証内容 メタバース上で対話しながら、島内観光や特産品の販売、移住相談等を実施	実証内容 島内に豊富に存在する再生エネルギーのうち、活用が進んでいない分野について実証

これまで令和2年度では愛知県南知多町日間賀島や香川県三豊市粟島、令和3年度では広島県広島市似島、今年度では香川県土庄町豊島(てしま)で実証実施。

MaaS連携高度化による移動のシームレス化の推進

令和5年度予算案：5.5億円
 /令和4年度第二次補正予算：4.15億円の内訳

背景・必要性・概要

- これまでの取組により、全国各地で課題解決のためのMaaSの取組が進展・継続中。
- 今後は、エリアや事業を超えた、よりシームレスで快適性・利便性の高い交通サービスの実現を目指すため、各地のMaaSの取組の連携、各地域内における交通事業者のみならず他分野の事業者の連携等の促進を図る。

MaaSの実装・連携

● エリアや事業を超えたシームレスな移動を実現するMaaSの実装

- 広域での連携を目指す取組や、マイナンバーカードの活用等幅広い事業者の連携を可能とする取組を重点的に支援。
- エリアや分野を跨いだ連携基盤の構築を目指し、必要な前提条件や要件・機能等を整理。

● 新モビリティサービス事業計画の策定、評価に取り組む事業者への支援



<取組事例>

- 左：九州全域において、同一PF・アプリ基盤を導入することで、シームレスなMaaSサービスを広域で提供。
- 右：前橋市において、マイナンバーカードと交通系ICカード連携による市民認証機能を実装し、公共交通の市民割引等を提供。

MaaS実装に不可欠な交通事業者のデジタル化等の促進

● 交通情報データ化、混雑情報提供システム導入支援

- 地域内・広域でのデータ連携を実現するため、デジタル化が進んでいない中小事業者等の底上げ
- DXによる経営やサービスの効率化、高度化

● AIオンデマンド交通の導入支援

● シェアサイクルや電動キックボード、グリーンスローモビリティ等の新しいモビリティの導入支援

● ICカードやQRやタッチ決済、顔認証等の新たな決済手段の導入支援

- 決済データ蓄積によりサービスの高度化を可能にするともに、キャッシュレスによるシームレスな移動の実現



概要

○AIオンデマンド交通、グリーンスローモビリティにおける、利用者登録、利用者からの予約受付、最適な運行ルート検索・設定・運行等の一連の流れに必要なシステムの導入を支援



受付端末



車載器

補助対象事業者

○一般乗合旅客自動車運送事業者、一般乗用旅客自動車運送事業者、自家用有償旅客運送者、地方公共団体、これらを含む協議会

補助対象経費

○AIオンデマンド交通等の導入に必要なシステム整備費及び利用促進に係る経費
○AIオンデマンド交通等に利用する車両に搭載する運行管理用機器の導入費
○AIオンデマンド交通等の旅客乗降位置の標示又は標識の設置費

補助率

○最大1/3

地域の公共交通×脱炭素化移行促進事業（環境省・国土交通省連携事業）

環境省

【令和5年度予算（案） 2,188百万円（2,265百万円）】

新たな地域モビリティ（グリーンスローモビリティ、LRT・BRT等）の導入を促進し、再生可能エネルギーと積極的に組み合わせることで脱炭素化された地域の公共交通の構築を支援します。

- 1. 事業目的** ・ グリーンスローモビリティやLRT・BRTを地域の公共交通へ導入するとともに、鉄道事業等を省CO2化し、利用するエネルギーに再生可能エネルギーを積極利用することで、2050年カーボンニュートラルに資する地域の脱炭素交通モデルを構築する。
- 2. 事業内容**

(1) グリーンスローモビリティの導入調査・促進事業（委託/補助：補助率 車両等導入1/2）

・地域課題の解決と交通の脱炭素化の同時実現を目指したグリーンスローモビリティの導入に係る調査検討及び、グリーンスローモビリティの車両等の導入支援を行う。

(2) 交通システムの低炭素化と利用促進に向けた設備整備事業（補助）

・マイカーへの依存度が高い地方都市部を中心に、CO2排出量の少ない公共交通へのシフトを促進するため、LRT及びBRTの車両等の導入支援を行う。
・鉄道事業等における省CO2化を促進するため、エネルギーを効率的に使用するための先進的な省エネ設備・機器の導入を支援する。

4. 事業イメージ

【導入調査・導入支援事業】



グリーンスローモビリティ

【設備整備事業】



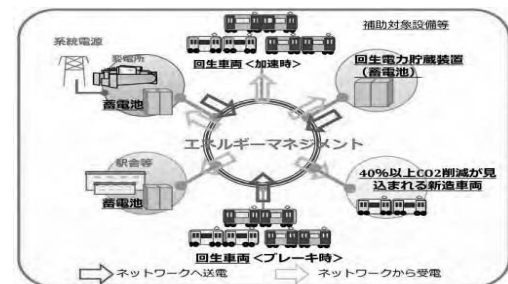
LRT
Light Rail Transitの略



BRT
Bus Rapid Transitの略

時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービス

【設備整備事業】 鉄道事業等の省CO2化



3. 事業スキーム

- 事業形態 委託事業/間接補助事業（1/2,1/3,1/4※一部上限あり）
- 委託先及び補助対象 民間事業者・団体、地方公共団体等
- 実施期間 令和元年度～令和9年度

お問合せ先： 水・大気環境局 自動車環境対策課：03-5521-8303



グリスO